MONITARO

CASE STUDY

時短・業務改善 実際の導入事例

国立病院機構 千葉医療センター様のケース

薬剤部
松永浩明先生

MONITAROで必要な情報がすぐに手に入るようになりました。

連絡を取るハードルが低くなりました

従来はメールで連絡する際に宛先や挨拶文の作成が必要で、どうしても時間がかかっていました。MONITAROでは病院とMRの双方が短い文章で簡単に連絡でき、MRには受信通知も届きます。その結果、**MRからの返信に要する時間が大幅に短縮されました。**

連絡すべきMRが明確になりました

以前は新任のMRが挨拶に来ない限り連絡先が分からない状況でした。MONITAROの担当者リストには "現在の担当者のみ" が表示されるため、**訪問のないメーカーも含めて、連絡すべき担当者へ正確に連絡できるようになりました。**特に、出荷調整で迅速な対応が求められる場面では非常に助かりました。

MRの活動状況を把握できるようになりました

MONITAROでは自身の空き時間に合わせて面会申請が届くため、突発的な訪問はなくなり、事前アポイントによる面談が中心となりました。また、チェックイン用パネルの設置によりMRの情報入力が促進され、**医師への情報提供活動の状況も画面上で把握できるようになりました。**